

令和4年度  
授業改善推進プラン

令和4年8月  
大田区立羽田中学校

## 目 次

令和4年度 大田区立羽田中学校 授業改善推進プラン全体計画	1
各教科の授業改善推進プラン	
国語科	2, 3
社会科	4, 5
数学科	6, 7
理科	8, 9
英語科	10, 11
音楽科	12, 13
美術科	14, 15
保健体育科	16, 17
技術・家庭科	18, 19

**【関係法令等】**  
 ○日本国憲法 ○教育基本法  
 ○学校教育法 ○学習指導要領  
 ○東京都教育委員会教育目標  
 ○大田区教育委員会教育目標

**【学校の教育目標】**  
 人間尊重の精神を基調として、広い視野をもって未来を生き抜く、心身共にたくましい生徒を育てるために、次の三つの力を生徒に身につけさせるために、全教職員で教育実践に取り組む。  
 ○「豊かな心」 ○「学ぶ力」 ○「健やかな体」

**【願い】**  
 ○学校、地域の実態  
 ○地域の期待や願い  
 ○保護者の期待や願い  
 ○期待される生徒像

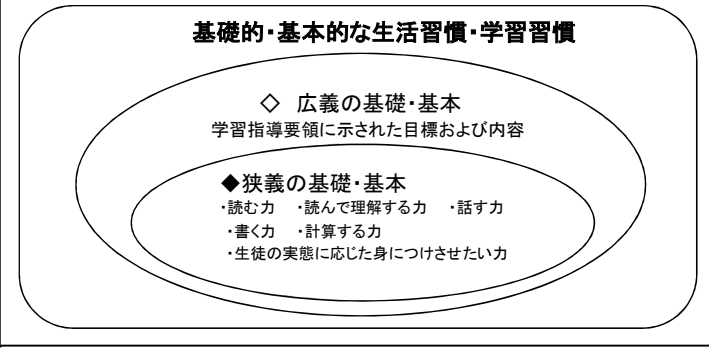
**学校経営方針 一人一人が自分の夢を実現させるために日々努力し続けていける環境を提供する学校を目指して**  
 『豊かな心と主体性を育む教育』を推進する。  
 『学力向上・体力向上のための取り組み』を推進する。  
 『地域と共にこどもを育てる教育』を推進する。  
 『規律ある学校生活』を送らせる。  
 『信頼される学校』であり続ける。

**各教科の指導の重点**  
 ○「区学習効果測定」、「全国学力・学習状況調査」「保護者・生徒による授業評価」等の結果分析、基礎・基本の定着と思考力を高めるための「授業改善推進プラン」の作成による授業改善への取り組みの充実  
 ○生徒の学習状況の把握と個に応じた指導の充実のために「学習カルテ」の作成と個別面談の実施  
 ○各生徒に配布したタブレット教材などのICTを活用した個に応じた学習の充実  
 ○土曜補習(年7回)、放課後学習教室

**【本校における確かな学力の捉え方】**  
 本校では生徒の人間としての調和のとれた成長を目指し、次に掲げる力を育成する。  
 ①基本的な生活習慣と学習習慣  
 ・規則正しい生活をしていこうとする意識 ・家庭学習を継続する力  
 ②授業規律と学習環境を整える力(姿勢・態度・服装・授業前の準備)  
 ・学習用具を揃える力 ・話を聞く力 ・ノートをとる力  
 ③基礎・基本的な学力  
 ・読む力 ・読んで理解する力 ・話す力 ・書く力 ・計算する力  
 ④知識及び技能を活用する力  
 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・発表力  
 ⑤主体的・創造的に学び続ける意欲や態度  
 ⑥情報の収集能力・活用能力  
 ⑦自ら課題を設定し探究する力、課題解決能力、コミュニケーション能力  
 ⑧マナーや規範意識  
 ⑨個性・適性を生かし社会に貢献していく力、自己実現を図ろうとする力

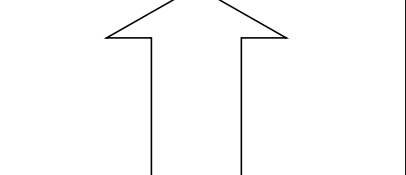
**道徳教育の指導の重点**  
 ○「深く考え、議論する」道徳へ向けた指導法の研修を推進し、意図的・計画的な道徳授業の実施を図る。  
 ○小中連携「規範意識向上プログラム」を計画的に実践し、何が正しいかを判断し、自ら責任をもって行動できる能力(自己指導力)を養う。  
 ○ICT機器を用いて、互いの考えを共有・整理し、議論を深める。  
 ○道徳授業地区公開講座を充実させ、家庭や地域社会と連携した心の教育を推進する。  
 ○自他の命を大切にすることを養い、命の尊さを知る教育に取り組む。(3月生命尊重週間)

**総合的な学習の指導の重点**  
 ○生徒自らが課題を設定し探求する学習の3年間を見通した計画的な実施  
 ○環境問題や国際問題、地域の課題、職業や自らの将来などへの課題意識をもたせる指導と、課題解決能力やコミュニケーション能力の育成  
 ○図書室やタブレットの有効活用、地域の図書館や関係諸機関との連携など、様々な学習環境の積極的な活用



**特別活動の指導の重点**  
 ○「時と場と立場をわきまえた行動」の確立と主体的な活動を通じた自己伸張  
 ○生徒会活動・学級活動の充実による自主的・自治的な態度の育成(ノーチャイムデイ・ボランティア清掃の実施)  
 ○部活動への積極的な取り組みによる豊かな感性の涵養と体力の向上、生徒相互・生徒と教師の信頼関係の深化  
 ○特別支援学級との交流活動の充実

**進路指導・キャリア教育の指導の重点**  
 ○「人としてのあり方、生き方」を考えさせる指導  
 ○3年間を見通した進路指導計画に基づく系統的・計画的な指導の継続  
 ○就労者の講演会やマナー講習等を通して、社会に貢献する態度の育成と自己実現を図ろうとする力の涵養



**生活指導の重点**  
 ○規範意識の向上と望ましい生活習慣の確立  
 ○学校生活調査とHyper-QUの実施、スクールカウンセラーやサポートルーム、不登校対応教室(とまり木)と連携した教育相談の充実  
 ○セーフティ教室(SNS、薬物乱用防止)の実施  
 ○地域や家庭、関係諸機関との連携による健全育成、安全指導の徹底

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導内容・指導方法の工夫	研究・研修への取り組み	評価の工夫	小学校および家庭や地域社会との連携の工夫
学習指導要領の趣旨を踏まえて ○基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力、及び学びに向かう態度の育成 ○学校評価の改善・工夫とそれを生かした授業評価の実施 ○「朝読書」「朝学習」「新聞教育」を活用した読解力・表現力の育成 ○道徳の授業の充実 ○サポートルームを活用した、	○数学(全学年)で少人数習熟度別授業を実施 ○英語(全学年)でチームティーチングによる指導を実施 ○総合的な学習の時間における職場体験・上級学校訪問などの体験的な活動の充実 ○個に応じた指導の充実のため「学習カルテ」の作成とカルテに基づく個別の面談の実施 ○オンデマンド授業やタブレット学習による学習機会の保証と充実	○生徒の学習意欲を引き出す指導方法の工夫と学力向上のための取り組みの充実 ○職層に応じた研修や校外の研修への積極的な参加と研修成果の還元 ○特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育に対する支援体制の確立とケース会議の充実 ○ICT推進校における研究の充実 ○タブレットを活用した学習	○より精度の高い評価基準を目指した適切な評価計画に基づく評価の実施 ○指導と評価の一体化(生徒の学習意欲を喚起し、生徒・保護者への評価に対する説明責任を十分に果たす) ○各教科の学習状況の保護者への周知と家庭における学習習慣の定着を目指した取り組みの推進	○連携小学校との共通指導目標(「学習指導・指導スタンダード」)の活用 ○小学校児童を対象とした中学校見学・部活動体験の実施 ○ボランティア活動への積極的な参加の促進と地域との連携の充実 ○「アスト羽中(学校地域支援本部)」との連携 ○学校と家庭の連携推進事業の活用による問題行動への対応

## 令和4年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・説明的文章・文学的文章などに音読指導を行うことによって漢字についての知識や文法的な知識など基礎的・基本的な知識が定着してきている
- ・小テスト、単元テストを繰り返し行うことで、知識の定着度を確認しながら授業をすすめることができた

#### (2) 課題

- ・単元で新しく学んだことを一時的に理解はできるが、定着に繋がらない生徒が多い。活用の問題に対して、既習事項に繰り返し触れさせる必要がある
- ・既習事項を活用して応用問題への対応をすることへの苦手意識が強い。授業で作文などを書く練習時間を多くとる必要がある

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	全体として目標値を4.1ポイント上回った。しかし区や全国の正答率と比較すると、全体的には下回っている。基礎や思考判断の部分を強化し、定着を図りたい。	/	/
第2学年	全体として目標値を2.0ポイント下回った。区や全国の正答率と比較して上回っている領域もあるが、全体的には下回っている。言語的事項の部分に課題が残る。	全体としては目標値を3.1ポイント上回った。しかし区や全国の正答率と比較すると上回っている領域もあるが、全体的には下回っている。基礎の問題の部分を強化し、定着を図りたい。	/
第3学年	全体として目標値を1.3ポイント下回った。区や全国の正答率と比較して上回っている領域もあるが、全体的には下回った。文法・語句に関する事項の部分に課題が残る。	全体としては目標値を3.0ポイント上回った。しかし区や全国の正答率と比較して上回っている領域もあるが、全体的には下回っている。活用の問題の部分に課題が残る。	全体としては目標値を2.4ポイント下回った。「言語についての知・理解・技能に関する観点については目標値を上回っているが、他の観点については課題が残った。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を4.7ポイント上回った。漢字も文法語句に関する知識も目標値を上回っていた。漢字の書きに関しては、区や全国の正答率を上回っていた。	目標値を3.7ポイント上回った。文章を書くについては区や全国の正答率と比較して上回っている。それに対して調べて発表する問題は努力を要する。	目標値を6.6ポイント上回っている。区や全国の正答率と比較しても上回っているのだからさらに伸ばせるようにしていきたい。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を 0.8 ポイント下回った。漢字の書き取りや文法語句に関する知識が目標値を極端に下回っており、定着していない。	目標値を 0.5 ポイント下回った。読むことについては目標値だけでなく区の正答率を上回っているが、それ以外では下回っている。	目標値と同じであった。区や全国の正答率より大きく下回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を 5.6 ポイント下回った。漢字の書き取りや文法語句に関する知識が目標値を極端に下回っており、定着していない。	目標値を 0.6 ポイント上回った。話すこと聞くことについては目標値だけでなく区や全国の正答率を上回っているが、それ以外では下回っている。	目標値を 5.5 ポイント下回った。区や全国の正答率と比較しても下回っている

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識事項を定着させるため、漢字や文法の小テストなどの実施を定期的に行う。また活用の部分の力を育成するために、いろいろな分野の本を読むように指導に力を入れる。	読解問題や作文など、事実や心情を明確に読み取ったり伝えたりするための方法や力を育成するために、段階的な指導に力を入れる。	多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいる一方、まだ意欲の低い生徒もいるので、さらに意欲が向上するように工夫して授業を進める。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識事項の定着ができていないため、言語や文法的事項に関する領域が目標値から低くなっている。漢字や文法の小テストなどの実施を定期的に行う。	読解問題など事実や事柄を明確に読み取ったり、伝えたりするための方法や力を育成するために、段階的な指導に力を入れる。	多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいる一方、まだ意欲の低い生徒もいるので、さらに意欲が向上するように工夫して授業を進める。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識事項の定着ができていないため、言語や文法的事項に関する領域が目標値から極端に低くなっている。漢字や文法の小テストなどの実施を定期的に行うことで知識事項の定着を図る。	読解問題や新聞記事の読み取りなど事実や事柄を明確に読み取ったり、伝えたりするための方法や力を育成するために、段階的な指導に力を入れる。	多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいる一方、まだ意欲の低い生徒もいるので、さらに意欲が向上するように工夫して授業を進める。

## 令和4年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・ 2, 3年生においてはワークを用いた問題演習や単元ごとのテスト等を繰り返し行ってきたことで基礎的・基本的な知識が定着してきている

#### (2) 課題

- ・ 3年生については、基礎的な内容を習熟しているが、江戸時代の単元で、定着率が低いところがある。また、2年生については、地理的分野・歴史的分野ともに、資料の読み取りという部分に課題がある

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	目標値から0.5ポイント上回っている。基礎的な内容については習熟しているが、資料や事象間の関連性についての読み取りが苦手である。	/	/
第2学年	目標値から0.5ポイント下回っている。特に世界の諸地域や東アジアにおける歴史上の外交関係が苦手で、目標値を大きく下回っているところがある。	目標値から0.5ポイント下回っている。地理的分野では活用に関する問題で基礎的な部分に課題がある。歴史的分野では前近代の範囲の問題で正答率が低くなっている。	/
第3学年	目標値を2.2ポイント上回ることができている。3年間を通して、基礎・基本的な内容が定着してきたことがうかがえるが、資料の読み取りで正答率がやや低いところがあった。	目標値を5ポイント強上回ることができているものの、世界の諸地域の大問で正答率が伸びていないという課題がある。	目標値に対して4.8ポイント下がる結果となった。とりわけ関心・意欲・態度と知識・理解の観点において大きく目標値を下回っている。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野、歴史的分野、公民的分野の3分野ともに定着しているが、平安時代の貴族のくらしを読み取る問題の正答率が低い。	全体的に目標値を越えた正答率となっているものの、日本の工業の特色についての記述問題で、正答率が低かった。	学習態度については、概ね良好であるが、世界の中の日本や食料生産について、やや苦手意識をもっていることがうかがえる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界各地の人々の生活と環境や弥生・古墳時代の東アジアにおける対外関係についての読み取り問題についての正答率が低い。	思考の問題は概ね目標値を上回っているが、記述問題の正答率が低い。特に資料をもとに考察し、表現することが苦手である。	昨年度よりも正答率が下がっているため、社会科という教科に対する関心や興味そのものが減退している可能性がある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野・歴史的分野の基本的な知識を問う問題については概ね正答できていたが、資料の読み取り問題の正答率がやや低くなっている。	前年度と比較すると、記述問題の正答率が下がっている。特に江戸時代の正答率が低く、記述問題に対する苦手意識が生じた可能性がある。	地理的分野、歴史的分野ともに、目標値を上回る正答率となっている。社会科に対する関心・興味を持ち続けていることがうかがえる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎時の授業内において適宜、既習事項の振り返りをして学習内容の定着を図る。ICT 機器を活用して、資料の読み取りの基礎を徹底的に行い、読み取った内容を記述させる。	授業内で既習の知識や用語をどのように活用すれば、社会的事象を説明することができるかについて解説し、主体的に社会的事象を説明できる力を養うようにしていく。	授業内で既習した内容を活用することのできる課題を設定し、その課題に対する回答を自ら考え、まとめさせる学習活動を行う。（学習形態として、グループワークを含む）

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種統計資料や地図の読み取りを反復して行う。また単元ごとに単元テストを行い、特に外交史や対外関係についての基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	授業の中で、様々な資料の読み取りと説明を適宜おこなうことにより、社会的事象について自ら説明できる力を身につけることができるようにする。	単元毎に学習ワークへの取り組みを徹底させ、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。社会科の興味・関心を喚起できるように授業の導入や展開を工夫する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な既習事項を授業内において反復して問うことで学習内容の定着を図る。ICT 機器を活用して社会的事象についての資料の読み取りを確実に習得する。	時代の流れや特色を様々な資料から読み取り、その読み取った内容を主体的にまとめることができるようにする。そのために、授業中に自分で単元内容をまとめる時間を多く設定する。	学習ワークで基礎的、基本的な知識の習得に限らず、資料の読み取り問題等にも主体的に取り組ませる。また、社会科の興味・関心を喚起する工夫を授業の様々な場面でおこなう。

# 令和4年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- 異なる領域や他教科との関連を意識した授業展開を図っている。それにより既習事項の定着を図り、実社会と学習内容の繋がりを生徒に実感させ学習意欲の向上を図ることができている
- 初めて取り組む問題に対して、既習事項をどのようにして用いることができるかを考えさせることで、系統的な学習に結びつけられている
- タブレットによる演習を行うことで、授業だけでなく家庭でも学習する機会が多くなり、生徒に学習習慣がついたものとする

### (2) 課題

- 公式や定理を暗記する傾向にあり、中には間違っ覚えていてる生徒もいる。それがどのように導き出されるのか、その過程の理解が十分とはいえない
- 問題文の読み取りに課題がある。例えば方程式の課題において、等しい数量関係を文章から捉えることに苦手意識を持つ生徒が多い。文意を表や図で表し、状況を整理して理解させることを促したい

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	全体として、昨年度より3.6ポイント上昇した。小数・分数の計算、整数の性質以外は目標値と変わらないか、上回っている。		
第2学年	全体として、昨年度より1ポイントほど上昇した。特に、統計領域では昨年度より正答率を上げたものが多い。一方関数での課題が見られる。	全体として、昨年度より3.5ポイントほど下降した。図形問題の正答率は上がったが、小数・分数の計算の定着に課題が見られる。	
第3学年	全体として、昨年度より5ポイントほど上昇した。特に関数と統計領域は、昨年度より正答率を上げたものが多い。一方、数式に於いては昨年度よりポイントを落とした。	全体として、昨年度より9ポイントほど上昇した。しかし資料の活用領域では、目標値に達していない問題があった。分数や累乗の計算の正答率が、昨年度を下回っていた。	全体として、昨年度より3ポイント下降した。特に、小数や分数の四則演算の正答率が、昨年度を大きく下回っていた。一方、百分率の問題の正答率は上昇していた。

### (2) 分析（観点別）

#### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年度よりポイントが上がり、目標値を上回っている。数と計算の領域では、特に小数・分数の計算が課題である。	昨年度よりポイントが上がっているが、目標値は下回っている。場合の数についての問題では、目標値を大きく下回っている。	データの活用領域では目標値を上回っており、特にデータの活用やグラフの読み取りができている。しかし、記述式の問題では、誤答だけではなく無回答も目立った。



② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。正負の数についての理解は深まっているが、方程式への理解が昨年度を下回っている。特に分数を含む計算が課題である。	目標値を上回っているものがほとんどであるが、1次方程式の利用の理解が昨年度よりを下回っている。	図形と統計の領域では、ほとんど目標値を達している。特に、グラフの読み取りの理解度が高くなっている。しかし、関数にグラフでは目標値を下回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数と式領域では昨年度よりポイントを落としたが、目標値よりは高い成果を得ている。関数領域に関して昨年度よりポイントを上げたが、目標値にはまだ至っていない。	昨年度よりポイントを上げ、目標値を上回っているものが殆どである。しかし、図形を関数的に捉え考える問題は目標値を下回っている。	現実の問題を、方程式や関数などを利用し解決する姿勢が解答より読み取れる。しかし1次関数のグラフをかく問題では、知識や思考が伴っていないために正答に至らない様子が伺えた。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題となる小数や分数の計算を毎回行う計算演習に多く取り入れるなど、定着を図る。	自身で解答するだけではなく、それを導く過程を授業内で互いに説明する場面を設ける。それにより、理解を深め、表現する力を養う。	問題に粘り強く取り組む姿勢が集団内で二極化している。既習事項と新しく学習する内容のつながりなどの理解を深め、意欲的に学習に取り組む姿勢を養う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
分数を含む問題を定期的に取り入れ、繰り返し演習を重ね定着をはかる。	ペアワークやグループワークを中心に、解答のみでなく、それを導く過程を説明させる。また、繰り返しの演習を行い、数学的な表現の仕方を定着させる。	既習事項の復習を丁寧に行い、新しく学ぶものとの繋がりを理解させ、生徒の意欲を高めさせる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1次関数など、暫く学習していなかった内容が定着しきれていなかった。領域を越えた問題を積極的に取り扱い、理解の定着を図りたい。	対話的な学習を意識的に行い、解答に至る過程を説明し合う場面をつくる。その際、自分の考えをまとめさせ、深い学びへと繋げる授業展開を図る。	問題を解決するために何が分かれば良いか段階的に考えさせたり、問題を理想化して部分的にでも考えさせることを経て、問題に粘り強く取り組む姿勢を培う。

## 令和4年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・1年生は、「活用」の問題、「物質・エネルギー」の領域で、目標値や区平均より高い結果が得られた
- ・2年生は、全問題、全領域で、目標値や区平均より高い結果が得られた。特に「地球」領域が高かった
- ・3年生は、「エネルギー」、「地球」の領域で、ほぼ目標値の結果が得られた

#### (2) 課題

- ・1年生は、「基礎」の問題、「生命と地球」の領域の正答率が低かった
- ・2年生は、「活用」の問題、「エネルギー」の領域の正答率が低かった
- ・3年生は、「活用」の問題、「粒子」の領域、「思考・判断・表現」の観点が低かった

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	「思考・判断・表現」だけが、目標値を越えた。「主体的に取り組む態度」が低かった。	/	/
第2学年	3観点とも目標値を越えた。一番低かった「思考・判断・表現」を育てていきたい。	3観点の中で、「知識・技能」だけが目標値に届かなかった。実験ができなかった影響があると考ええる。	/
第3学年	「知識・技能」は区平均を越えた。記述問題の正答率が著しく低かったので、強化したい。	「観察・実験の技能」の観点だけが目標値を越えた。特に低い「関心・意欲・態度」を育てたい。	「関心・意欲・態度」「思考・表現」の観点が低かった。身近な科学から関心を高めたい。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年度より正答率が下がった。顕微鏡の操作に関する問題の正答率が低かった。	昨年度より正答率が上がった。水溶液の再結晶に関する問題の正答率が低かった。	昨年度より正答率が下がった。信号機と発光ダイオードに関する問題の正答率が低かった。

##### ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年度より正答率が大きく上がった。無セキツイ動物の特徴についての正答率が低かった。	昨年度より正答率が大きく上がった。ばねののびの計算や、凸レンズと像の問題で正答率を下げた。	昨年度より正答率が大きく上がった。日常生活の中で蒸留を利用した現象の問題の正答率が低かった。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年度より正答率が上がった。ガスバーナーの操作、グラフの作成の正答率が低かった。	昨年度より正答率が上がった。酸素の発生方法、化合する酸素の質量に関する問題の正答率が低かった。	家庭内の配線が並列つなぎであることや、その仕組みを問う問題の正答率が特に低かった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実験の際は、器具の使い方や、器具の部分の名称、操作上の注意点などの説明を重視する。	事象を調べる実験方法を考えさせたり、実験から事象を説明したり、考察する場面を増やす。	実験や観察をしてみたり、出来ない部分は映像で確かめたりして、主体的に取り組む態度を育てる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
練習問題や小テスト、単元テストなどを用いて繰り返し学習することで、知識を定着させる。	回路図や天気図など作図や図の読み取りを重視する。計算問題では、立式を重視し、繰り返し練習する。	雲の出来方や静電気の現象など、日常生活に見られる現象と関連づけ、主体的に取り組む態度を育てる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業の中で、現象や用語の自分で説明できるまで理解させ、記述問題に対応する力をつける。	酸・アルカリの濃度と体積の関係の計算問題や、電池の仕組みを理論的に説明できるように指導する。	知識を身近なものにどのように応用されているのかを知ることによって、主体的に取り組む意欲を高める。

## 令和4年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・ ICT機器を効果的に利用し、個々でのリスニング、スピーキングの能力の養成をした
- ・ ペアワークやグループワーク、ALTとのやりとりを積極的に取り入れ、アウトプットの機会を増やした
- ・ スペリングコンテストや小テストなどで競争心を高めつつ、家庭学習の習慣を定着させることができた

#### (2) 課題

- ・ 語法に関する知識が足りない。ドリル学習等の時間を取り入れ、基礎的な知識の定着を図る
- ・ 英作文を行うことへの苦手意識が高い。授業で書く時間を十分に確保し、短い英文を書く練習を繰り返す必要がある

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	校内正答率は目標値を上回る達成率であるが、大田区の平均正答率と比較すると、すべての領域で下回っている。特に「聞くこと」は区平均と比べ下回っている。	/	/
第2学年	全体的に、ほぼ目標値どおりだが、区平均と比較すると下回っている。聞くことは内容理解、対話など全体的に正答率が高いが、文法や英作文は低い。	全体の正答率は目標値を上回る達成率であるが、大田区の平均正答率と比較すると全ての領域で下回っている。特に「聞くこと」は区平均と比べ下回っている。	/
第3学年	リスニングや長文の読み取りなど「聞くこと」「読むこと」は平均的もしくは平均を上回る。英作文等「書くこと」は正答率が低い。	全てにおいて目標値を上回っている。ただし全国平均や区平均を下回る。特に、記述や活用問題の正答率が低い。	/

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりも上回っているが、区平均よりは若干下回っている。	目標値を上回っているが、区平均を若干下回っている。英作文の力は、目標値も、区平均も上回っている。	ほぼ目標値どおりで、区平均をわずかに上回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より 2.4 ポイント高いが、区平均と比較すると8ポイント低い。語彙の問題の正答率は比較的高めだが、文法の正答率が非常に低い。	目標値、区平均と比べて下回っている。リスニングは比較的好成績だが、読むこと、書くことに関する課題がある。	目標値よりは約1ポイント上回ってはいるが、区平均と比べると約7ポイント低い。自己表現する英作文の正答率が高い。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を1ポイント程度下回っている。語形、語法に関する問題への正答率が低い。長文の読みとりに苦手を感じている生徒が多い。	目標値を2ポイント近く上回っている。ところが場面に応じて書く英作文の問題に対する正答率は低い。会話に対しての壁は低く、失敗を恐れず挑戦することができる。	目標値を1ポイント程度下回っている。「聞くこと」「読むこと」「話すこと」に対しては意欲的だが、「書くこと」に関しては慣れが必要である。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ビンゴにより単語力の定着を図る。小テストにより文法の確認をする。教科書本文の音読、暗記、暗写を通し、基礎力の定着を図る。	「日常会話を聞く力」を伸ばすため、ペアワークなどを通し、会話に慣れさせる。英作文の力をさらに伸ばすため、随時、自己表現の英文を書かせる。	ペアやグループ等で自己表現する機会を多くもち、モチベーションを高めるALTとの会話テスト、スピーチなどを通し、学習意欲を高める。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書くことへの抵抗感を減らすため、語の並べ替えや日本語に合う英文を書くなどの問題が扱われているワークなどを使い、文法の知識の定着を図る。	長文読解に対する意欲を向上させるため、教科書関連の物語や生徒が関心のある題材を使った教材を使用し、読み取る力を身につける機会を作る。	話すことでは、生徒の興味が引きつけられるものを取り入れ、ペアやグループワークで話す習慣を身につけさせる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ICTを活用し、語形、語法に関するドリル学習を行う。長文に対しては、授業で触れる機会を増やしていく。	英作文を書く機会を意識的に増やし、慣れさせる。また、会話から作文につなげる指導をしていく。	会話する場面では意欲的だが、語法の知識を身に着けたり、英作文を作ったりなどの意欲は低い。適宜ICTを用い、意欲を高めていく。

## 令和4年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・鑑賞では、1年で「春」を取り入れた。音楽を形づくっている要素を知覚することで、感受した曲の雰囲気との関わりを、ヒントカードを使いながら考えることができた
- ・前年度の反省を活かし、器楽活動を積極的に取り入れ、ギターやリコーダーを演奏することができた

#### (2) 課題

- ・昨年度に引き続き、生徒自ら考えて音楽表現を工夫することに課題を感じる。音楽表現を考える下地として基礎知識の定着の徹底を図りたい
- ・楽典については、音符の名前などを期末テストに何度も出題することで、定着を促してきたが、まだ不十分であるように感じる。普段の授業でも小テストを積極的に取り入れて、引き続き知識をつけさせていく

### 2 観点別の課題

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
理解力に差がある。また、歌唱では、大半の女子生徒は音感が良い。一方で、男声の音程が不安定である。楽典の知識の定着はできていない。	表現の工夫について指摘すれば改善が見られる。しかし、自ら表現を工夫しようという思考力は乏しいように感じる。	授業中は非常に積極的で、活発に発言することが多い。しかし、集中力が続かないことがある。

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
クラスの人数が少ないこともあり、歌唱活動での声量が全体として少ない。知識の吸収は比較的早いですが、時間が経つと忘れてしまう傾向がある。	表現のために必要な思考・判断力が乏しい生徒が多い。鑑賞では、注目するポイントを提示すると、よく考えることができるが自ら見つけることはできない。	授業中の発言は多い。しかし、歌唱活動になると、声が小さくなる。歌にあまり自信のない生徒が多いように感じる。

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一人で歌うことに慣れていない。実技試験では、音程感、リズム感が乏しい生徒が多かった。楽典の知識は定着してきたが、理解度に差がある。	自ら考えて表現を工夫しようという思考力に欠ける。器楽の練習にはしっかりと集中して取り組むことができる。一方で自ら課題を見つけ、解決することは難しい。	歌唱活動に対して非常に積極的である。話し合い活動をしっかり行うことができる。一方で授業中は私語が多くなってしまいう時がある。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な楽典知識を授業の導入の際等に復習させ、知識の定着を促す。歌唱では、変声期をむかえる男子生徒に苦手意識をもたせないよう、細かく指導していく。	表現についてパートごとに考える機会を増やし、他者の意見を取り入れながら自身の表現を工夫できるようにする。	授業規律を守らせることを徹底させる。また、授業の流れを最初に説明することで学習の見通しをもたせる。

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歌唱の正しい姿勢や発声を、身につけることができるよう、歌唱の際には必ず姿勢・発声・呼吸の3点を意識させる指導を行う。	他者の演奏を鑑賞し、アドバイスすることができるよう、お互いの演奏を聴き合う活動を取り入れる。鑑賞ではどこに注目して聴くかを考えさせる。	音楽に興味・関心をもたせるために、普段の生活と音楽との関わりに気づかせる。授業の流れを確立し、生徒に学習の見通しをもたせる。

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎知識を生かせるよう、毎時の目標を意識して取り組む。歌唱の際には必ず姿勢・発声・呼吸の3点を意識させ、表現の工夫に必要な技能を定着させる。楽典の知識を表現にも活用できるよう、随時復習させる。	振り返りを丁寧にする。「どのようなことが課題でそれを解決するためには何が必要なのか」を常に考えさせる指導をおこなう。鑑賞で知覚したことと感受したことの関わりを意識させる。	学習の目標を明確化し、学習の見通しをもたせる。授業中の問いかけを増やし、対話の中で鑑賞のポイントや表現のポイントに気づかせることによって生徒の集中力をきらさないようにする。

## 令和4年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・発想や構想については、その都度いくつかの例や資料をもとに、着想し表現できるようになった

#### (2) 課題

- ・生活の中で芸術に触れる機会は、感染症拡大の状況下においては、未だ厳しい状態が続いている
- ・平面のモチーフと、三次元のモチーフの違いや、模倣からオリジナル作品を生み出す理解が乏しい

### 2 観点別の課題

#### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識、理解にばらつきがあるので、丁寧な指導を心がける。	構想を色や形で表現することが難しく、制作のきっかけがつかめない。	作業がうまくいかず、集中力に差がある。

#### ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識、技能の取得は、ばらつきがあるが、身につけてきている。	表現したいが、それにともなった思考力、判断力が、まだ身につけていない。	技能が身につけてきているので、より積極的に授業に取り組んでいる。

#### ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識、技能の習得が全体的に向上している。	生徒同士、意見を交換し、課題に取り組んでいる。	より積極的に発言し、質問やアドバイスを求める生徒が多い反面、わずかではあるが制作に身の入らない生徒も存在する。



### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ワークシート等を使用し、分からないところは図解して説明して一人一人理解させる。	最初に何を表現したいかを明確にさせる。	地域の一員として、また将来を担う社会の一員として、ポスター制作に取り組ませる。

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作の技法、材料について学習させる。	身近な自然の造形美について学ぶ。	美術館や博物館、作品制作や美術品修復について学ぶ。

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
制作する上で技法、材料や道具、またその時々で制作に合った道具を自作することを学ぶ。	日本や世界の伝統文化、技法や材料について学ぶ。	美術の文化や、価値について、より深く学習するとともに歴史や風土との関係性についても理解を深める。

## 令和4年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・コロナ禍により、個々の体力差やスキルの差が大きく広がっている中、レベルに応じた課題を提示し、粘り強く取り組めるように工夫した
- ・全体的に体力が低下している中、体力向上をめざし400m走やトレーニングを感染防止も考慮しつつ行い、体力向上を目指した

#### (2) 課題

- ・行動制限がさまざまある中で、いかに体力を向上させるか、工夫が必要である
- ・男女共修になり、授業の中で誰もが思いきり体を動かすための工夫が必要である

### 2 観点別の課題

#### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体力や技能が低い生徒が多い。技能が高い生徒は一握りで、その差が大きい。	自己の課題をみつけ改善していく力が必要である。	一生懸命取り組めるクラスと、意欲が低いクラスと差がある。

#### ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一年次に比べ体力は向上してきているが、運動技能を高める必要がある。	今何をすべきかなど、自分で考え行動する力が必要である。	授業に主体的に取り組める生徒が増えてきている。しかし自己肯定感については未だ課題である。

#### ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識・技能ともに向上してきている。	自己の課題をみつけ、その課題を解決する力も付いてきている。	運動に主体的に参加できる生徒が多い。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>補強運動や基礎練習を繰り返し行い体力の向上を図る。</p> <p>資料を提示するなどし分かりやすい授業を展開する。また、専門用語を繰り返し意識的に使うようにする。</p>	<p>細かく動作のポイントを伝え、どのように改善したら良いかなど具体的な例を提示しながら、考えるヒントを与える。</p>	<p>小さなことでもできたことがあれば積極的に褒め、達成感や充実感につなげる。また、見本など生徒から選び自己肯定感を高める。</p>

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>個々の運動技能に合わせた課題を提示し改善できるようにする。</p> <p>資料を提示するなどし、分かりやすい授業を展開する。また、専門用語を繰り返し使うようにする。</p>	<p>目標をしっかり提示し、個々の目標を意識させてから授業を行う。</p> <p>細かく動作のポイントを伝え、どのように改善したら良いかなど具体的な例を提示しながら、考えるヒントを与える。</p>	<p>見本など生徒が活躍する場面を意図的に作り出す。また、アドバイスをかけたり称賛したりする場面をつくり、自己肯定感を高められるようにする。</p>

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力を高める。資料を提示するなど分かりやすい授業を展開する。</p>	<p>目標をしっかり提示し、個々の目標を意識させてから授業を行う。</p> <p>細かく動作のポイントを伝え、どのように改善したら良いかなど具体的な例を提示しながら、考えるヒントを与える。</p>	<p>見本など生徒が活躍する場面を意図的に作り出す。また、アドバイスをかけたり称賛したりする場面をつくり、自己肯定感を高められるようにする。</p>

## 令和4年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・タブレット端末を適切に活用することで、効率的で深い学びを実現しようとしている
- ・「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業展開を行っている。課題であった「対話的な」学習も、班やペアを組んで学習に取り組ませる工夫を行っている
- ・授業で行った基本的な知識が中々定着しないという課題があったが、教材を実生活に結びつけ、重要な部分は繰り返し指導する等の工夫を行い、改善を図っている

#### (2) 課題

- ・製作実習において、生徒の作業進度に差が生まれ、完成が難しい生徒が出てしまう。班活動をさらに充実させ、「教え合い」の雰囲気をつくっていくことが必要である。また、「わかりやすい」授業の実現のために、教師が優れた見本を示したり、生徒が使いやすい技術室になるよう、工具や機械類の適切な配置を検討していく
- ・「教材で育成を目指す資質・能力」を身に付けさせるためには、①「教材」②「教授法」③「学習者」を考えなければならない。それぞれの方法や実態を分析し、工夫した授業をしていく

### 2 観点別の課題

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個に応じた指導ができた。その結果、技能の向上が見られたが、知識を深める授業を行うことが今後の課題である。	課題解決型の題材を扱い、話し合い活動を多く取り入れているが、限られた授業数で如何に深い学びにつなげるかが課題である。	生徒のものづくりに対する意欲は高く、主体的に授業に参加する様子がうかがえる。

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
製作の授業で技能の向上が見られる一方、定期考査の結果からは知識が定着しているとは言いがたい。	図面を見ての製作が中心となってしまうので、今後は設計の課題を設け、表現の場をつくるのが課題である。	生徒のものづくりに対する意欲は高く、主体的に授業に参加する様子がうかがえる。

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
計測・制御の授業ではプログラミングの仕組みを理解し課題に取り組むことができていたが、知識の定着には課題が残った。	課題解決型の題材を扱い、考え、表現する授業を行ったが、話し合い活動を設定できなかったことが課題である。	生徒のものづくりに対する意欲は高く、主体的に授業に参加する様子がうかがえる。限られた授業数で、内容の濃い授業を行うことが今後の課題である。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
引き続き個に応じた指導を心掛けていく。生徒同士の教えあいを大切にし、ものづくりの意義や楽しさを伝えていく。知識が定着するよう、粘り強く指導していく。	I C T機器を効果的に活用し、効率よく生徒が意見等を表現できるよう、環境を整えていく。話し合い活動も充実させていく。	実生活につながる題材を使い、生徒が主体的に学習に参加できるよう工夫していく。生徒の学習活動を適切に評価していく。

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
引き続き個に応じた指導を心掛けていく。生徒同士の教えあいを大切にする。実習で学んだ知識が定着するよう、粘り強く指導していく。	エネルギー変換の分野では、回路の設計の課題を設け、深く考え、表現する機会をつくっていく。	実生活につながる題材を使い、生徒が主体的に学習に参加できるよう工夫していく。生徒の学習活動を適切に評価していく。

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
引き続き個に応じた指導を心掛けていく。生徒同士の教えあいを大切にする。実習で学んだ知識が定着するよう、粘り強く指導していく。	プログラミング学習において双方向型の授業を行い、深く考え、表現する機会をつくっていく。	実生活につながる題材を使い、生徒が主体的に学習に参加できるよう工夫していく。生徒の学習活動を適切に評価していく。